

令和 5 年度 第 1 回 御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会 会議録
(令和 4 年度市民協働型まちづくり事業補助金 事業報告会)

日 時 : 令和 5 年 5 月 18 日(木)

13:00 ~ 16:45

場 所 : 市役所 東館 2 階 201-203 会議室

1 出席者

〔御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会 委員〕※敬称略

花山 勝重、高橋 良子オザナ、菊池 いづみ、勝亦 功、刈山 祐江、川村 美穂、立道 佳之、高瀬
宏樹、芹澤 直己、大石 侑香、尾身 亜矢子、瀬戸 邦昭、大田 雄紀 計 13 名

〔御殿場市市民協働型まちづくりアドバイザー〕※敬称略

牛山 久仁彦 (明治大学 政治経済学部教授)

〔事務局(市民協働課)〕

上原課長、三改木統括、梶、小長井

2 事業報告会 [13:00~15:40]

〔内容〕

令和 4 年度御殿場市市民協働型まちづくり事業補助金の実績報告のため、各団体・担当課のプレゼンテーション、質疑応答等を実施。「御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会」の委員 13 名を評価者として、前年度に実施された市民提案事業 7 事業(新規 2 事業、継続 5 事業)の評価を行った。

【市民提案事業】

- (1) 事業名: 黒澤明監督と御殿場市 [3 年目]
団体名: 御殿場黒澤明学会
担当課: 魅力発信課

〔質疑応答〕

(委員) 今回パネルを設置されたとのことだが、設置後の反応、手応えはどうか。

(担当課) 団体からの説明として、近隣の方などで足を運ぶ方が増えたとの実感を得ているとのこと。
Google の口コミなどでは、看板が設置されたから見に行ってきたというものもあり、今はこのような情報を検索して行ってみる方も増えており、ある程度御殿場市を知っていただくきっかけにはなったのかと考えている。

(団体) 御覧になった黒澤明ファンの方からも良かったという声をいただいている。

(委員) 市民提案事業ということで 3 年目が終了したが、今後 4 年目以降の市との協働はどのように進めていく考えか。

(団体) 正式にはどのように進めていくか決めていないが、今後も継続して魅力発信課と連携して取

り組んでいきたいと考えている。

- (担当課) 市としてもフィルムコミッション事業など力を入れて取り組んでいるが、それも黒澤明監督と御殿場市の関係があって、ということが発端にあるのかなと思うし、そういった歴史の部分は調べていく必要があると思う。4 年目以降も連携しながら地道に進めていきたいと思う。
- (委員) 「世界のクロサワ」ということで、海外ファンの方も御殿場に来ることもあると思うが、海外のファンに向けた発信方法などの仕掛け、仕組みなどはあるか。
- (担当課) 現状、情報発信の手段としては SNS の活用など行っている。記念板についても外国語対応(英語を併記)で作っている。どうやって海外の方に PR していくのが重要だと思うが、具体的なものはまだ示すことはできないが、団体と共に考えていきたいと考えている。
- (委員) これまでにも黒澤明監督関係の取り組みは様々な団体が行ってきたが、今回の取り組みが従来の取り組みとどういった点で差異があるのか、特色などについて改めてお伺いしたい。
- (団体) 黒澤明監督の関係のこれまでの取り組みについてはあまり良く知らないが、看板の設置など具体的な取り組みに繋がれたことが一つ大きいと考えている。
- (担当課) 人的資源のことについて、黒澤明監督のファンは高齢の方が多く、どうしても会員も恒例の方が集まりやすい。団体の活動としても少ない人数に負担が大きくなってしまっている部分もあるので、もう少し若く、動くことができる方に協力していただかないと、継続的に活動していくのは難しいと思う。この課題については団体と一緒に考えていきたいと思う。

(2) 事業名: 御殿場の魅力発掘事業 [3 年目]

団体名: 御殿場の魅力発掘隊

担当課: 魅力発信課

〔質疑応答〕

- (委員) 担当課の方にお伺いするが、先に報告をいただいた黒澤明学会と子の魅力発掘隊について、ともに魅力発信課が協働相手であり、内容を伺うと黒澤明監督のロケ地の関係も活動に含まれている。上手く担当課で整理して、タイアップできる部分もあるのではないか。
- (担当課) 双方の団体にはそれぞれの情報を共有している。上手くお互いの事業に繋がるようにしていきたい。
- (委員) 3 年間の事業お疲れさまでした。とても良い事業で、御殿場の知られざる魅力を伝えることができていると思う。今回 3 年目で補助金としては終了となるが、なかなか補助金以外の収入がない中で、今後の活動をどのように行っていく考えか。
- (団体) 活動の内容は費用が必要なもの、必要でないものに大きく 2 つに分けられると思う。団体の活動としてはお金のかからない部分(魅力の発掘、調査)などを中心とし、費用を必要とする部分は担当課や観光協会などとの繋がりの中で実施していくことができればと考えている。

(3) 事業名: 家族を守るママ防災 [3 年目]

団体名: ごてママ

担当課: 危機管理課

〔質疑応答〕

(委員) 冊子が非常に素晴らしく、今後も配布されると良いと思う。こういった内容は、例えば市民に配布する生活の手引きのようなものに活用されていくと望ましいと思うが、担当課ではこのコンテンツの活用方法について何か考えはあるか。

(担当課) 転入されてきた方に是非手に取っていただきたいという内容であると思う。団体、担当課と市民課と調整し、2 月下旬から転入してきた方に配布するようになった。

(委員) 団体の活動は様々な場面でお伺いすることが多く、非常に良い取り組みをされているのだと思う団体の特徴として SNS を効果的に活用しているというのがあるが、このことは他の団体の参考になると思う。SNS を活用することの有用性は分かるが、団体として感じる SNS の難しい点などはあるか。

(団体) SNS を使わない世代へのアプローチが難しいのが一つ課題だと思う。だが、この 3 年間で事業を行う中では、広報ごてんばで開催案内を行ったり、新聞社に取材に来ていただいて発信していただく、説明でも触れたが地域の防災リーダーの会議に出て講座を行ったりすることで、様々な世代にアプローチできたのではないかと思います。

(4) 事業名: はぐっと ～みんなで子育て～ [2 年目]

団体名: 子育て支援有償ボランティア団体 はぐっと

担当課: 子育て支援課(子ども家庭センター)

〔質疑応答〕

(委員) 子を持つ親としては、このような場所、取り組みがあるのは大変心強く感じる。このコロナ禍で希薄になってしまった人との繋がりに対して、このような取り組みがあることは大変すばらしく、ぜひ継続して取り組んでいただきたい。相互評価の総括表の中で、団体から市への意見として「担当者を決めて連絡を取り合えるようにしてほしい」とあるが、現在は担当課の担当者が決まっていないのか。

(団体) 本事業は 2 年目となっているが、実際には昨年度は別団体が 1 年目を行っており、自分たちが 2 年目を引き継いだ形での実施であった。このため、自分達だけでは何をどのように行ってよいのか分からない部分も多かった。令和 5 年度で 3 年目が終わってしまうとなったときに、担当課としても担当となる方を決めていただいて、密に連絡、調整、相談できるようにしていただきたいと要望した。

このことも受けて、令和 5 年度は保育士の方を担当に付けていただき、その方と相談できる体制が整っている。

(委員) 活動場所は主にふじざくら、公園などとなっているが、御殿場駅周辺の方にとっては少し遠いように感じる。けやきかんなどを利用した事業の実施もできるのではないか。

(団体) けやきかんはコロナ禍で利用人数制限もあり、団体で想定する事業の規模と上手く合わな

かった。利用者から話を伺うと、子どもが転んでも安心ということを考えると和室が良い、という声を多く聞く。このため、昨年度からは青少年交流の家の和室を利用して実施してきた。暖かい時期には公園を使って開催(公園緑地課と調整)した。

今のところけやきかんでの事業実施はしていない。

(委員) 収支決算書を見ると、収入の部で、市の補助金 28 万円となっている。今後の団体の活動について、自立して行っていくことはできるのか。

(団体) 今の状態では大変難しいと考えている。団体の活動としての有償ボランティア部分のベビーシッター、産前産後ケアなど、問い合わせは協働事業の実施後で増えてきてはいるが、これだけで団体の活動を支えられるかと言えば無理だと感じる。青少年交流の家でも助成の仕組みがあるとお声がけをいただいているためその検討や、クラウドファンディングの活用も考え、3 年目以降もこの取り組みが継続できるようにしていきたいと考えている。

(5) 事業名: 流産や死産、中絶等経験者のサポート事業 [1 年目]

団体名: Mallow

担当課: 健康推進課

[質疑応答]

(委員) 令和 4 年度で補助金を活用した協働事業としては終了とのことだが、今後、御殿場市と団体との関りはどのようになっていくのか。

(団体) 令和 4 年度で協働事業としては終了となるが、この 2 年間で培った土台を生かして、市内に団体の支援を必要とする方がいるときは保健センターや市内の医院から団体に紹介いただくという形でこれからも連携していきたい。また、ちくちく会についても定期的に開催していきたいと思う。

また、毎年 10/9 から 10/15 のベビーロスアウェアネスウィークに合わせて、令和 4 年度に実施したマルシェのような啓発活動も行っていきたい考えで、その時に行政にも協働いただきたいと考えている。

(担当課) 健康推進課では母子手帳の交付時などに団体の紹介などをしていき、情報発信を継続して行い、団体と担当課で連携した支援を行っていきたい考え。

(団体) 2 年前にはじめの一步事業から始めたときは、本当に団体としてもできたばかりの時で、担当課も対応が非常に難しかったと思うが、非常に丁寧に自分たちの話を聞いてくれて、そのことで活動が徐々に広がっていったと思う。グリーフケアという助産師の中でもなかなか狭い分野について、活動を始めることができ、様々な自治体と繋がりを持つことができるようになったのは、御殿場市が活動を受け入れてくれた部分が大きいと考えている。

- (6) 事業名： 観光ボランティアガイド養成講座 [1 年目]
団体名： 御殿場市ボランティアガイド協会
担当課： 観光交流課

〔質疑応答〕

- (委員) 団体の会員が 23 名とのことだが、実際に御殿場をガイドとして御案内できる方はどの程度いるのか。
- (団体) 元々は 1 人しかいなかったところ、この活動を始めて次第に増えている。現在は二子湧水で 5 人程度、さくらまつりで 8 人程度となり、さくらまつりは実際にガイドを行った。現在は休養林のガイド育成に力を入れており、9 名程度が学んでおり、実際にガイドできるのは 3 名。コース別にガイドできるものリストを作成して配布する考え。
- (委員) 報告で海外の方のガイドを行ったとあったが、海外の方への対応もできるのか。
- (団体) 英語ができるメンバーが 3~4 名程度おり、実際に米国からの観光客のガイドを行った。御殿場市国際交流協会とも協議しており、何とかしてインバウンドへの対応をしていきたいと考えている。
- (委員) 市民協働の補助金を利用した事業の中でも観光に繋がるような取り組みをしている団体、担当課も多い。観光ボランティアということで、そういった事業とも連携して、他の団体が調べたこと、やっていることを生かし、自分たちが持っているもの以上のものにしていくことができるのではないかと思う。
- (団体) 事業の展開として、他団体との協働も考えている。実際に休養林のガイドについても、「御厨の風」や「富士山ホシガラスの会」などとつながって、資料を使わせてもらったり指導いただいている。先程「馬車鉄道研究会」とも御挨拶させていただいた。是非とも他の団体と横の連携をとって、活動を広げていきたいと考えている。
- (委員) 団体間の横連携については、ぜひ市民協働課が音頭をとって行っていただきたい。
- (委員) ガイドというととても幅広く、観光ということで富士山や景観等が主になると思うが、世界から観光で来る方にとっては、食事も同じように重要なテーマだと思うが、そういった面で考えていることはあるか。
- (団体) 団体の活動としては観光協会と結びついて行っており、例えば業者などの中間に入ってガイドコースを考え、その中でお店などをお勧めされるケースはある。

- (7) 事業名： 令和の世によみがえる御殿場馬車鉄道復元プロジェクト[2 年目]
団体名： 御殿場馬車鉄道研究会
担当課： 社会教育課

〔質疑応答〕

- (委員) 団体の運営が持続可能になることはとても重要なことだと思う。今後協働事業として行っていく上で、団体と行政がどのように連携していくのか考えはあるか。
- (団体) これから先の協働については、観光をターゲットにするのか、歴史教育をターゲットにするのか、によって協働していく相手が変わっていくと思う。会の設立当初から、どうやったらこの

団体を続けていくことができるだろうかということは考えており、現在は当初に描いた「10 年後のゴール」に向けて活動しているところ。その先の活動として、単に団体としてアウトプットして終わるのではなく、誰かに引継ぎ、後世に伝えていくことが団体としての役割だと思っているので、何かイベント等を実施する際に行政と組むのも手だとは思っている。

何かに固執するのではなく、民間の有志で動いているため、形を変えながら進めていきたいと思っているし、補助金など生かせるものがあれば、行政のアドバイスも受けながら進めたいと考えている。

- （委員） 発表の中で、今後学校にも活動を広げたいと言っていたのは素晴らしいと思う。生きた歴史が学べることが重要だが、教育委員会との連携をどのように行っていくのか。
- （団体） 昨年、担当課の協力を得て市内の中学校にアプローチしたが、年度途中でありなかなか対応が難しかった。令和 5 年度には何らかの方法で学校と連携した事業に繋げていきたい考え。子ども達にとっても気づきが得られるような活動にしていけることができればと考えている。
- （委員） せっかくの活動をより多くの市民に知っていただく場がないかと考えていたが、社会福祉協議会がふじざくらで行っている「ふれあい広場」など、様々なイベントへの出展も検討されてはどうか。
- （団体） ぜひ参考にさせていただく。

3 選考会 [16:00 ～16:45]

〔内容〕

事業報告会でのプレゼンテーション及び質疑応答の状況、報告書の内容、採点結果(順位付け)、委員からのコメント等を踏まえ、各事業の実施内容及び実績について協議を行った。

※委員からの意見は全ての事業や補助金の仕組み全体について総括していただいた。

【市民提案事業】

- (1) 事業名： 黒澤明監督と御殿場市 [3 年目]
団体名： 御殿場黒澤明学会
担当課： 魅力発信課

〔コメント(審査用紙自由記載欄)〕

- ・今後もこの取り組みを継続し、会員の増加と資金源を増やし、御殿場の PR 強化につなげ、観光ルートとの一つとなればよいのではないだろうか。
- ・ファンや観光客をたくさん御殿場に呼んで、市をにぎやかにするには良い事業だと思います。もっと若い世代への発信を頑張ってほしいと思います。
- ・鑑賞会等、映画そのものを活用した取り組みができると PR 効果が上がるのではと感じました。
- ・社会的ニーズ、地域課題の解決に資する重要な事業である。先進性も高く市民ならではの提案である。直接的な成果を得られたので、波及効果を期待して、御殿場の魅力発信のため、行政や他の団体や地域との連携に努めてください。
- ・今後も引き続き活動に期待したい。しっかりと担当課と連携して今後も市内外、海外の方にもアピールできるようにしていただきたいです。
- ・看板設置の効果はあったと思います。また、毎年定期的に黒澤明パネル展を開催してほしい。海外の方にも PR する方法を模索中とのことで、今後も行政と協働での情報発信に期待します。
- ・看板設置は御殿場を訪れていただくきっかけになったと考えます。他団体と協力して今後の活躍に期待します。
- ・成果が記念板の設置に留まっていないかと感じました。シビックプライドの醸成が目的に上げられているので、市民を巻き込んで大きな動きに繋がることを期待します。
- ・御殿場市を知ってもらえる 1 つの「機会」としていいと思います。
- ・協働することにより、調査、研究に留まらず、市内外への発信を強化できたと思います。③年目ということで、この補助金の枠は出てしまうが、御殿場市の魅力の一つとして今後も調査、発信を続けていただきたい。
- ・テーマ、コンテンツとして集客力に大きな可能性を秘めたものだと思う。発信、企画、持続方法を再考する必要がある。
- ・関わりのできた黒澤組関係者による講演会等を計画してはどうか。パネル、看板設置等以外にも魅力発信する場を設けると、なおよくなるのではと感じた。

(2) 事業名： 御殿場の魅力発掘事業 [3 年目]

団体名： 御殿場の魅力発掘隊

担当課： 魅力発信課

〔コメント(審査用紙自由記載欄)〕

- ・今後も継続的に行っていく活動と考える。そのために行政が今後も財源的にも情報的にも支援していく必要を感じる。
- ・いろんな人たちの繋がりや新しい発見など、楽しく歴史を知ることができるのはとても良いと思います。
- ・コロナ禍を経て事業の効果が明確に表れているように感じました。今後の発信に期待しています。
- ・市民にも分かりやすい、タイムリーなテーマを選び、ホームページ、動画、見学バスツアー、イベント等を実施したことは、各部門での評価は高い。本市の魅力発信手段は多岐に渡るため、観光協会等、他の関係団体とも交流を図り、行政とも密接な連携により所期の目的を達成されたい。
- ・継続してやっていきたいと思っている団体が費用面で苦戦してしまう感じがする。協働をしていく中で次につながるようになると良い。
- ・御殿場市を PR するイベントを行政と団体が協働で企画し、開催することで御殿場の魅力を発信できていた。YouTube もヘリコプター動画が 6 万回再生あり、社会的評価を得る数字と言える。御殿場に足を運んでもらうための活動であるため、団体の得意な撮影など、今後も行政と相互に協力して活動してほしい。
- ・各団体と協力し成果があったので、更に魅力を発信し御殿場への来訪者を増やしていただきたい。
- ・行政が目が届かない所を市民団体が行うという協働の理想を実現した事業だと思います。今後の展開をどうするのか先が気になる事業です。
- ・バスツアー、イベントなど団体と市の両方にとって目標以上の成果が目に見えてあり、今後もイベントなどに繋がるよう活動を続けて行ってほしいです。
- ・大変面白い内容の事業だと感じました。魅力の発掘だけでなく、発信力の強さに驚きました。協働することで、更に大きな力となったと思います。今後の団体の更なる発展が楽しみです。
- ・魅力の発掘は多くできている。発掘後の PR や集客の部分を。他団体、インフルエンサーなどに頼めたりすることができると良いと思います。
- ・黒澤明学会と協力してはどうか。コンセプト、構成員、活動方法が異なるため難しい部分もあると思うが、お互いの経験、知識を共有すれば、双方にとっても有益であり、サービス向上にも繋がるのではと感じた。

- (3) 事業名: はぐっと ～みんなで子育て～ [2 年目]
団体名: 子育て支援有償ボランティア団体 はぐっと
担当課: 子育て支援課(子ども家庭センター)

〔コメント(審査用紙自由記載欄)〕

- ・事業 1 年目なら分かるが、2 年目でありながら行政と十分に協働できていない現状を考えると、今後も協働できるのか疑問が残る。優勝事業の部分と純粋な無償ボランティアの活動部分の区分けが不明瞭であることが気になる。
- ・どんな時でも子育ては待ちません。なのでコロナ禍でも活動をしているのはとても良い。何よりも、専門家やシッターがいて、親が安心して行ける、参加できることはとても大切です。
- ・丁寧に活動されているように見受けられました。担当課に適切に連携をとり、効果的に事業を進めていただきたいと思います。
- ・事業の新規性、ニーズ性の評価は高く、団体の活動は重要だと認識する。残念根拠協働の観点からは課題が残ってしまったが、反省を踏まえ、行政各課と連携し、引き続き市民のニーズに応えていただきたい。
- ・団体と担当課の連携を密にしていきたいと思います。団体主体の活動となっている感じがあるので、もう少し担当課の協力が得られると良い。
- ・産前産後の鬱が増えているということで、行政と連携してママの居場所づくりをしている活動を今後も期待します。
- ・人との繋がりが希薄な中、貴重な事業だと考えます。行政と連携して、より良いものにしていただきたい。
- ・現在の課題に合った取り組みだと思います。ニーズにどう今後も応えていけるか、継続性が大事だと思います。
- ・子育て世代へのアプローチは行政としても力を入れていきたい部分であると思うので、次年度は 3 年目になるので、団体ともう少し協働してお互いに情報提供、協力しながらできると良いと思う。今のままでは団体の単独事業のように見えてしまうのではないかと思います。
- ・市(行政)単独ではなかなか実現できない事業だと思うので、協働事業として提案いただき良かったと思います。来年度以降も続けられるよう、予算の確保等頑張っていただければと思います。
- ・有償ボランティアという点は良いと思った。取り組みとして、子育て世代にとってとても重要な取り組みだと思うが、補助金に頼っているところが多く、行政又は他団体のアドバイスが必要だと思った。行政側の事業継続のフォローアップができればよい。
- ・予算等困難な部分があると伺ったが、今後も必要とする方が多くいると思われるので、頑張ってください。

(4) 事業名： 家族を守るママ防災 [3年目]

団体名： ごてママ

担当課： 危機管理課

〔コメント(審査用紙自由記載欄)〕

- ・外国籍のママや子供のために防災冊子を外国語翻訳したことは、全市民の視点に立っており評価できる。この活動は御殿場だけでなく、他市町まで広がっていくモデル的事業であると考えます。
- ・地震や台風の多い日本では必ず必要とされる防災。それをどれだけ広く市民に届ける、様々な世代に届けるかが課題なので、このように分かりやすく行うのは素敵だと思う。
- ・活動が発展的に行われている様子が良く分かり、素晴らしいと思います。今後の活動に期待しています。
- ・事業の新規性、ニーズ性、事業効果、協働の理解度など、多くの事項を評価すべきと判断した。得られた成果を更に活用、展開していただきたい。
- ・行政と団体がともにアイデアを出しあい支え合う協働を築くことができていた。また、外国人住民用として多言語の冊子もつくられたことは素晴らしいと思います。
- ・まさに“市民協働型まちづくり”といえる事業。事業完成度が高く、素晴らしいと思います。今後の更なる発展を楽しみにしています。
- ・3年間の取り組み、成果が良く分かりました。ただ一番良い影響があったのは行政の方ではなかったかと思います。押しつけからの防災が住民目線で取り組まれた良い事例だと思います。
- ・富士山噴火や地震など防災に力を入れていく時代にとっても良い事業だと思います。防災こそ協働して市民に対して色々な情報を発信していくのが市にとってもプラスになるのではないかと思います。
- ・協働事業として、まさにお手本となるような内容だったと思います。防災教育を行政だけで行うと一方通行になり、なかなか市民に根付いたものとならない中で、協働することで何倍もの効果があったと思います。今後の活躍も期待しています。
- ・行政のアイデアを超えた素晴らしい活動である。迅速性、実現性、利便性、社会貢献性など理想的な市民協働のかたちだと思います。
- ・地域防災は、協働が必須であると常々感じていたが、団体の活動力、ノウハウを上手く生かし、とても効果的な協働事業になったと感じた。

- (5) 事業名: 流産や死産、中絶等経験者のサポート事業 [1年目]
団体名: Mallow
担当課: 健康推進課

〔コメント(審査用紙自由記載欄)〕

- ・行政だけでなく医療機関ともつながっており、相乗効果が期待できる。他の協働事業団体との交流を希望されているが、是非実現していただきたい。
- ・とてもデリケートな分野で、ものすごくお母さんたちが必要とする分野でもあります。事業を継続していただきたいと思います
- ・支援の届きにくい方々に対する活動が認知されたことは、協働事業ならではの成果であると思います。
- ・行政では実施が困難な領域に踏み込んでくれたことを評価したい。大変に重く地道な事業だと理解するが、市内外の団体や行政と連携し協働支援に努めていただきたい。
- ・この活動を通じてできた繋がりを今後も御殿場市と連携が取れて行けるということで安心しました。何年も経ってからグリーフケアを必要とする人もいますので、市としての周知方法を考えて行ってほしいです。
- ・保健センターや担当課が行っている検診時に団体の照会をいただいていることは協働事業と言える。
- ・行政との連携も上手く、市外へのアプローチへ発展したことは素晴らしいです。
- ・グリーフケアという意義のある取り組みを協働という形でスタートしたことが良かったと思います。おそらく活動が広がって自立していくのでしょうが、市側もパートナーシップを継続して行ったら、強みを増していけるのではないかと思います。
- ・御殿場市から県内にまで広がって、団体にとっても、今後の市においてもとても良い関係が築けたことが良く分かりました。今後も協働して、団体の活動の場が広がっていくと良いと思います。
- ・必要だけれどなかなか行政単独では実施ができなかった事業ということで、大変意義のある協働事業だったと思います。この補助金を利用しての事業実施は終了ということですが、協働事業でできた繋がりを生かして活動を継続してくださるとのこと、今後もお願いいたします。
- ・行政で十分にケアができない分野の保管をするような事業でとても良い事業だと思った。事業継続と発展に期待。
- ・ピンポイントな事業であり、行政の手が届きにくい面があると思われるので、協働事業として進んだことはとても良かったのではないかと感じた。必要とする人の苦しさを軽減する事業であり、今後も続けていただきたい。

- (6) 事業名： 観光ボランティアガイド養成講座 [1 年目]
団体名： 御殿場市ボランティアガイド協会
担当課： 観光交流課

〔コメント(審査用紙自由記載欄)〕

- ・市の観光交流課のみならず、市の他部門との協働ができ、今後の活動の広がりが期待できる。
- ・とても幅広い事業だと思います。これまでなかった観光ボランティアを作ったのは素晴らしいです。世界中から御殿場に人々を自信を持って呼べる、案内することができるようになったら最高です。
- ・事業を通して会員増という成果に繋がりが良かったと思います。今後の発展に期待します。
- ・観光事業等への支援のため、団体の専門性を高めたことは評価できる。各種講座を開催した結果、会員も増やすことができたことなど、今後の活動に期待したい。また、行政及び観光協会等関係団体との連携により本市の観光振興に努めてください。
- ・今後の観光業、御殿場のためにはすごく重要な事業になる。多くの人にボランティアガイドをしてもらえるよう今後も継続して頑張ってください。
- ・外部からのガイド養成できる意欲が高まったのは良かったが、専門的な知識はまだ十分ではない。しかしインバウンドのガイドにもチャレンジしていることは評価できる。担当課や観光協会、他の市民活動団体と連携して今後も活動していただくよう期待します。
- ・魅力ある御殿場の発信に不可欠なので、今後の活躍に期待します。ガイドの育成頑張ってください。
- ・次年度は内部のことに注力するというコメントがありました。この事業への▶が負担だからやめるのかを聞いたかったです。陽性ではありますがスキルアップは大事で、リスクマネジメント、対人技術、現在のガイドへの研修が必要ではと思います。
- ・昨年度、協働して学んだことを今後に生かして活動を続けていただきたいと思います。市とも良い関係で今後も関わり合えると良いと思います。
- ・23 名のボランティアガイドを養成できたということで、成果があったと思います。他の団体さんとの情報交換を積極的にしてくださっているとのことで、今後の更なる展開に期待しています。
- ・市の魅力を発信できる人が増えるこの事業は大切だと思った。コロナ禍でガイドの実施がなかなか難しかったと思うが、今後の活動に期待している。
- ・コロナも 5 類に移行し、御殿場市に来る観光客が増えると思われる中で、市の名所を案内できるボランティアガイドが増えることは望ましいことであると感じる。この講座を受けた方々全員が一線で活動するのはまだ先なのかと思われるが、そこからが協働事業としての本番だと個人的には感じるので期待したい。

- (7) 事業名： 令和の世によみがえる御殿場馬車鉄道復元プロジェクト[2 年目]
団体名： 御殿場馬車鉄道研究会
担当課： 社会教育課

〔コメント(審査用紙自由記載欄)〕

- ・市との協働により新聞、テレビなどマスメディア出広く情報周知が可能となったと感じる。事務局体制強化のため、会員が増えてきている観光ボランティアガイド協会の支援を検討したらよいと感じる。
- ・3 年しかない中で、できるだけ早く子ども達の教育に取り組んでいけると良いと思います。より多くのサポートが必要だと思いますが、必要とされる取り組みだと思います。
- ・地域の歴史に関わる内容ですので、持続可能な取り組みをしていけると良いと感じました。
- ・地域ニーズも高く評価する。専門性にも優れ、成果等の報告や情報発信も分かりやすく、また専門性についても評価できる。今後の活動に期待をしたい。しかし、団体として事務局「要因の拡充等について安定的運営を指摘されており、今後の事業展開等の課題である。
- ・市民に多く知ってもらえるよう PR の場を増やしてほしい。接活作った車両が有効活用できるよう担当課を交えて考えてください。
- ・担当課の担当者 1 名のみで事業を見ており、十分なサポートが行政としてできなかったことや、団体の活動の継続性に不安が残る点が気になる。今後、多くの市民の目に触れるようイベントの開催、参加等を期待する。また、広報ごてんばへの記事掲載など行政と引き続き協働を進めるよう期待します。
- ・生きた歴史を見ることができる貴重な事業であり、ロマンがある。継続することで御殿場から全国へ広がる者なので、今後が楽しみです。
- ・街中を活性化させたり、どこかに場所を作ったり、御殿場の観光の目玉になりそうな取り組みだと思います。団体の自主性も大事にしながら、市が力を入れる事業にできるのではと思いました。
- ・団体として大きな目標、活動への意欲がとてもあるため、市のサポートの面を考えながら活動して欲しいです。
- ・記憶でしか残らないものを形で残す事業で、非常に有意義だと思います。協働という形をとることで、広報誌への掲載など、PR の場が広がったと思います。
- ・観光資源として面白いプロジェクトであるので、学術研究にとどめておくのはもったいないと思う。
- ・特色のある魅力的な事業だと感じた。市との協働を更に感じる活動(市の文化事業、イベントとの関係等)が増えると、協働事業という面としては更に良いと感じた。

【はじめの一步事業】

- (1) 事業名: おもちゃ病院事業
団体名: 御殿場おもちゃ病院
担当課: 富士岡支所/社会教育課

〔コメント(審査用紙自由記載欄)〕

- ・単純に“モノを大切に作る心”を育むだけでなく、世代間交流、生涯学習につながる良い事業だったと思う。今後市内全域に活動を展開していくとのことなので期待したい。
- ・喜ばれる事業ではあると思うが、協働事業と考えると、もっと市との関りを感じる事業と考えると、もっと市との関りを感じる事業が増えればなお良いと思われる。
- ・おもちゃの修理がほとんどなくなっているこの時代の中で、それを通して「壊れたおもちゃはごみにすぐならない」ことを子ども達や大人にまで教えることができる素晴らしい事業。コミュニケーションが必要とされること、世代交流、ものを大切にする心、誰かに頼れることを知ることなど、子どもの心と地域の人の心も豊かになる素敵な事業だと思う。
- ・意義深い取り組みですので、継続していかれることを希望します。
- ・物を大切に作る気持ちを育てる上で大切な取り組み。地道な活動ですが、継続されていくことを期待。ミニ四駆のような、団体を知ってもらい試みも大切にされたいと思います。
- ・コロナ禍で希薄な人との繋がりが、こうした事業で交流を促すので継続していただきたい。
- ・定期的開催していることもあり周知されてきていると思う。場所さえあれば市内の中心でやるとより来場者が増えると思う。
- ・特別な技術を持っている方が、子ども達におもちゃの修理を通して物が動く原理原則や、修理することでものを大切にする心が育まれている。また、親子工作では製作したおもちゃを動かす体験はものづくりの大切さを知ることであり、子どもの可能性を引き出している。活動する方々の地域の中で輝くときの創出にもなっており、今後の活動の継続を期待します。
- ・ごてママ子どもサロンに参加し、他団体とも協働し事業の立体化に努力している。市民活動団体連絡会に出席し、他団体に当団体の存在を認識してもらえるよう努力しているので、今後の活動発展に期待できる。

- (2) 事業名: 御殿場のトンボの移り変わりと環境教育事業
団体名: 富士山トンボ池の会
担当課: 環境課

〔コメント(審査用紙自由記載欄)〕

- ・トンボという特定の昆虫を対象としている理由をもっと知りたいと思った。興味深い事業だとは思った。協働事業として市の関りを感じる事業が増えればなお良いと思う。
- ・自然が不可欠な私たちにとっても必要です。それと同時に減少しつつあるトンボなどの虫たちを、自然を救うことができるのはとても素晴らしいです。
- ・成果品である冊子の更なる有効活用を検討していただきたいと思います。

- ・25 年の調査の積み重ねがこうして形になったこと、素晴らしいです。印刷には限界があるので、PDF でダウンロードできるとかどこかのサイトで WEB 版が見られるとか、活用がもっと図られると良いと思います。
- ・冊子の作成だけではなく、より多くの市民へ波及できる仕組みが必要ではないか。
- ・今年度調査し作成した冊子が有効に使われることに期待しています。
- ・団体の専門性と行政の支援で冊子が作成され、今後の環境教育事業や観察会のイベント時に活用していただき、保護活動にも期待します。
- ・環境教育用冊子 500 部作成事業に留まり、トンボのみというマニアックの冊子であり、環境教育イベントで利用できるのか疑問が残る。トンボ池という隠れた御殿場市の魅力が発見され、観光ルートに加えられるなど、他の団体の協力により活動の幅が広がる可能性はあると感じる。

- (3) 事業名： ひろがり学習塾講師養成講座
 団体名： 御殿場市生涯学習ボランティアセンター
 担当課： 社会教育課

〔コメント(審査用紙自由記載欄)〕

- ・“講師を養成し、講座を開講する”という結果の見える取り組みを、協働して実施することで大きな成果があったと思う。新講師の方へのアフターフォローも行っていくのでしょうか。
- ・生涯学習に繋がり、将来に繋がる協働事業であると感じた。
- ・より良い社会があるためにより良い教育、いろんなところで学べる機会が必要であり、人生ずっと学ぶことが必要とされるので、事業としてはとても良いと思いました。
- ・担当課の尽力が大きかったようですが、目標数を上回る成果が得られたことは良かったと思います。
- ・生涯学習を進めるにあたって担い手を育てることは重要でとても意義のある取り組みだと思います。
- ・多くの講座が増えることで、市民の生活水準を高く保てるため、機会があればまたまちづくり補助事業を活用していただきたい。
- ・団体だけではできなかった講座が協働により開催でき、講師となる人が増えたのはとても評価できる。今後も継続的に養成講座ができると良いと思います。
- ・新しい講師が増えることにより市民の生涯学習の裾野が広がる効果が期待できる点では、生涯学習を更に発展させる協働事業だと思います。
- ・新規 7 名の講師増、新規 8 教室増の数値で分かる成果があった。団体と行政の役割分担による相乗効果を感じた。

【委員からの意見】

- (委員) これまでの協働事業で得たものを団体や担当課に伝えることができると良いと思う。その点については市民協働課が、例えば過去にこの助成制度を利用していた活動、団体がどのような方法で自己資金を得たのかを調査していただき、活動資金等をどうやって得ているのかを把握し、伝えることができると良い。
- (委員) 団体と担当課がもっと密に協力、連携しているところが見られると良いと思った。単独の担当課と協働するのではなく、関係する課をより広く巻き込んで活動を広げていくことができるよう支援するべきだと思う。
- (委員) 協働のその先のゴールにも様々な形があると思う。団体が活動を自立させていく形もあれば、行政が団体の活動を取り込んでいくような形もあると思う。協働することが目的になってしまってはいけない。相互に共有するゴールに向かって進んでいくにあたって、関係性等を整理したほうが団体等も動きやすいのではないかと思う。
- (委員) これまで委員として3年間、協働事業を見てきたが、団体の活動が取り上げられる機会も多く、思っていた以上に良かったと思う。特にごてママと危機管理課の事業は、協働事業として手本となるようなものだったと思う。馬車鉄道にしても、観光ボランティアガイドにしても、御殿場から全国に発信できる取り組みになったのではないか。
- (委員) どの団体も積極的に取り組んでいたと思う。様々な課題があると思うが、3年間の補助金の期間だけで協働が終わってしまっただけでは意味がない。行政がどのようにそれ以降の活動に関わっていくのか、ある程度コーディネートするようなつもりがないといけないと思う。
- これまで十数年間「市民協働」を掲げて取り組んできて、これは上手いいったと誇れるような取り組みがあるのか、ということをしつかりと検証しないと、このままの形で続けていくのはもったいないのではないか。市民協働課だけではなく、庁内全体で協働をどのように進めていくのかを検討すべきだと思う。
- (委員) 今回私が協議会の委員公募に応募したのは、市民協働型まちづくり事業でどのようなことをやっているのかについて、一市民として知りたかったというのが発端。個人的なつながりで活動を知っているものもあったが、他の事業についてはあまり知らず、市民協働課でYouTubeに上げている動画も見たが、再生数は数十回程度となっている。もう少し広く市民に知っていただく、PRすることが必要なのではないかと考えている。
- (委員) 令和4年度は実施事業も多く、どの団体も誠実に事業に取り組まれていて感心させられる部分も多くあった。しかし様々な課題もあろうかと思うので、協働事業が今後の団体の活動に良い方向に繋がっていくことができるようにしていく取り組みが必要かと思う。
- (委員) 市民活動を活性化するにしても、行政と団体が補完し合う協働型のまちづくりを今後は期待したい。
- (委員) 過去に協働事業の市の担当課職員として携わっていたが、行政だけで主導してやっとうと押しつけのような形になってしまい結果が出ず、市民に根付いたものになっていかなかったけれど、協働することで市民同士の広い繋がりも得て事業を進めることができたと考えている。
- (委員) 資金面など課題もあるが、行政との連携により乗り越えていくことが重要だと思う。
- (委員) 行政だけでは手が届かない部分を担っている市民が多くいることを改めて認識する。市民

協働という目線では、どこまでが行政とやっていく部分なのか、役割分担などが非常に難しいと考える。

(委員) 協働事業として立ち上がったものを、補助金が終わるので無くしてしまうことは本当に惜しいと思う。活動をどのように持続していくか、行政としてもちゃんとフォローアップしていく必要があると思う。また、それぞれの協働事業同士で横連携できるものもあると思うので、中間発表の場などを設けても良いのではないかな。

(牛山教授) 今日の発表会を伺っていて、御殿場市の協働も進んできたなと改めて感じた。協働について、御殿場市に限らずどの自治体にも課題がある。協働事業と言っても市全体の予算から見れば規模は小さく、それによってサービスを受け取ることができる方も限られてきてしまうので、どれだけ成果が出たのかを評価することは難しい部分もあるかと思う。それでもこのように発表会の場を通じて事業の実績や協働を行っての所感などを伺い、この協議会としても今後どのように対応していくのかを考えることは重要。

発表会の中でも何度か団体や担当課からあった発言として「(3 年目で)これで協働も終わり」というものがあるが、補助金の期間が終わってしまう意図ではあるが、協働自体が終わるものではない。また、担当課の発言の中でも「団体をお世話できなかった」といった趣旨の発言もあったが、こういったそもそも言い方、認識が間違っているものもあった。市民の皆さんが自発的に活動することが地域のためになっていて、そのための準備、総務省の研究会でも「公共私プラットフォームを作ることが今後の行政の役割として求められる」としており、行政として求められることは、そのためのプラットフォーム、施策をどうするのかということで、どのような協働を続けていくのかということを考えていかなければならない。

またこれはなかなか難しいが、所管課で事業として実施していくことも含めて、こういった事業をどのように継続していくのかの仕組みづくりが必要になってくる。

例えば東京都中野区では事業化を市に提案できる仕組みを設けているが、このような仕組みを考えていかないと、事業が続いていかないのではないかなと思う。